

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 4月3日から4日は、低気圧が発達しながら日本の東から千島近海を北上し、高気圧が東シナ海から日本付近へ移動する。
- 5日から6日は、高気圧が日本の東へ移動し、気圧の谷が東シナ海から日本付近を東進する。
- 7日は、気圧の谷は日本の東に進み、高気圧が東シナ海から日本の南に移動する。

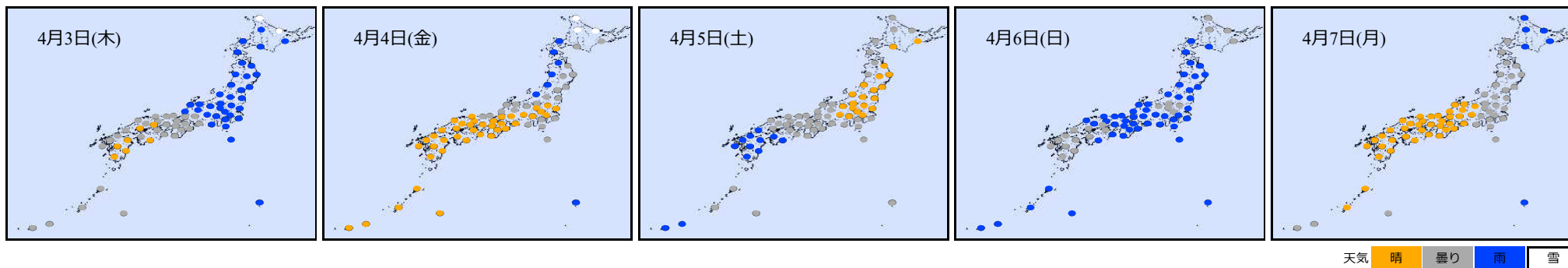
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

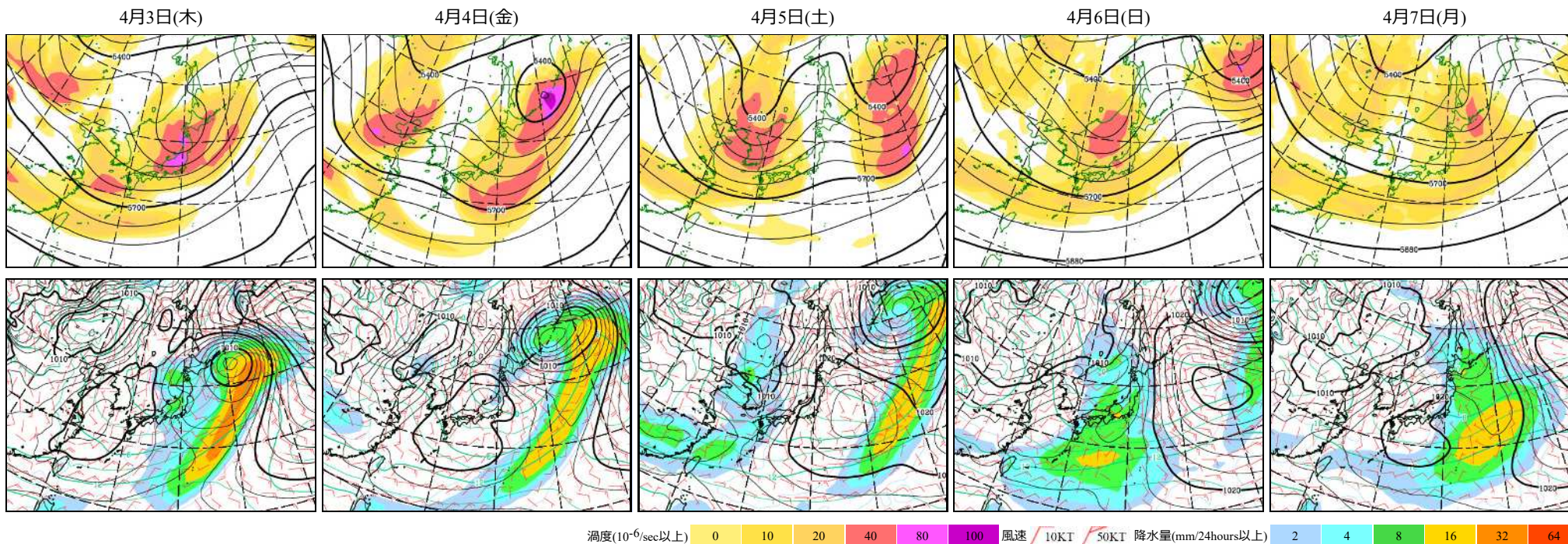
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

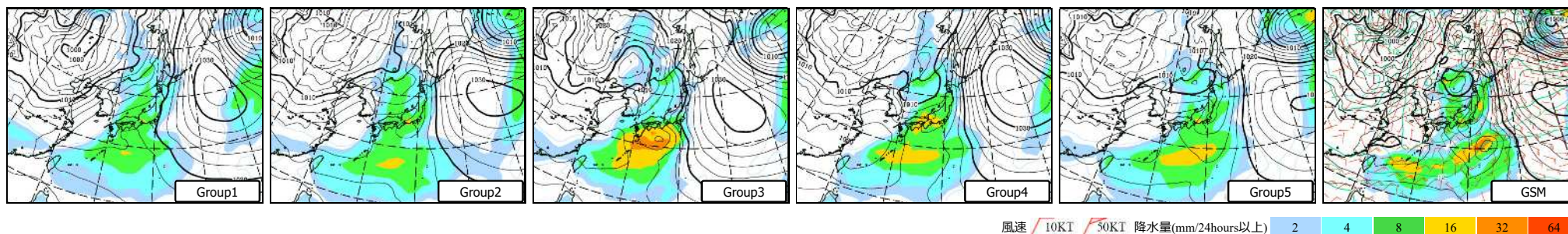


- 北日本は、4月5日は晴れる所が多いが、その他の日は曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本は、3日と6日は曇りや雨の降る所が多いが、その他の日は晴れや曇りの所が多い。
- 西日本は、5日から6日は雲が広がりやすく雨の降る所があるが、その他の日は晴れや曇りの所が多い。
- 沖縄・奄美は、4日と7日は晴れや曇りとなるが、その他の日は曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月6日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、上空の流れに大きな初期値変わりはない。期間の前半に北日本付近を通過する寒冷渦の位置は少し変化があり、日本の東を北上する低気圧の進路もやや東寄りに変化。また、6日に日本付近を進むトラフが少し浅くなり、7日に西から接近するリッジがやや強まった。
- 大まかな上空の流れの予想は、各モデルでおおむね共通しているが、期間後半に西から接近するトラフの深さや位相についてはモデル間でバラつきが見られる。期間後半は日本付近を気圧の谷が通過し、各モデル天気が崩れる予想だが、地上の低気圧の予想については相違がある。メンバー間でもバラつきがあり、本州南岸付近を低気圧が進む予想もメンバーの2割ほど存在する。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。